

地域・在宅看護援助論

単位数（時間数）：2 単位（30 時間） 必修/選択：必修 履修年次：3 年次 開講時期：後期

科目責任者（職位・氏名）：准教授・越納美和

科目担当者（職位・氏名）：教授・大沼由香、助教・太田ゆきの

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識と技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：56

■ 授業概要

在宅療養者やその家族の特性を理解し、その人らしく生活していくための支援について、日常生活援助の工夫や終末期・難病・リハビリテーションの看護の観点から学修し、看護援助技術の修得を目指す。また、地域社会で生活・療養している人々の健康の保持・増進を支援する他職種の支援の実際を学べるよう教授する。

■ 到達目標

1. 地域・在宅看護で求められる日常生活援助技術や医療技術について説明できる
2. 地域・在宅療養を支える医療ケアの原理原則およびその技術について説明できる
3. 地域・在宅看護の主な対象となる事例を通して療養者や家族への支援の実際がわかる
4. 地域・在宅療養者を支える他職種の支援の実際がわかる

■ 教育内容

地域・在宅看護論

■ キーワード

在宅看護援助技術、生活の場における日常生活援助技術、意思決定

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	在宅療養を支える看護技術 医療ケア②	授業オリエンテーション 4章 2 薬物療法、3 がん外来化学療法 15 インスリン自己注射 17 疼痛管理 4章 排便ケア 10 ストーマ管理、摘便 13 褥瘡管理 講義、個人ワーク、グループワーク、	越納
2	在宅療養を支える看護技術 医療ケア①	4章 1 医療ケアの原理原則 11 在宅経管栄養法 12 輸液管理（在宅中心静脈栄養法） 講義、個人ワーク、グループワーク	太田
3	在宅療養を支える基本的な技術	2章 1 コミュニケーション 3 環境整備、福祉用具の活用 5 感染予防 講義、個人ワーク、グループワーク	越納
4	在宅療養を支える基本的な技術	2章 4 生活リハビリテーション 介護予防の取り組み 講義、個人ワーク、グループワーク	大沼
5	在宅療養を支える看護技術 福祉・医療ケア・演習①（ユニホーム着）	演習：車いす、福祉用具、自助具、体圧分散マット、の使用方法の体験、摘便の演習	共同
6	在宅療養を支える看護技術 福祉・医療ケア・演習②（ユニホーム着）	演習：車いす、福祉用具、自助具、体圧分散マット、の使用方法の体験、摘便の演習	共同
7	在宅療養を支える看護技術 小児・難病者・精神障害者と家族のケア②	6章 難病者のケアと家族支援 当事者と支える人たちの思い	大沼 ゲストスピーカー
8	3.在宅療養を支える看護技術 終末期のケア	2章 6 ターミナルケア 講義、グループワーク	大沼

9	療養者に適した住宅と福祉用具	住宅改修・福祉用具の調査 レポート課題あり（フィールドワーク）	越納
10	在宅療養を支える看護技術 福祉・医療ケア・演習③（ユニホーム着）	演習：経管栄養剤・胃瘻部注入・ケア、在宅中心静脈栄養法の実際、HOT、HMV、NPPVの使用方法的体験（帝人・ケアテック協力）	共同
11	在宅療養を支える看護技術 福祉・医療ケア・演習④（ユニホーム着）	4章 6 在宅酸素療法（HOT） 7 在宅人工呼吸療法（HMV）， 非侵襲的陽圧換気療法（NPPV） 気管切開下間欠的陽圧換気療法（TPPV） 講義、個人ワーク、グループワーク	共同
12	在宅療養を支える看護技術 小児・難病者・精神障害者と家族のケア①	6章 小児・難病者・精神障害者のケアと 家族支援 講義、グループワーク	越納 ゲストスピーカー
13	在宅療養を支える看護技術 アドバンスケアプランニングと多職種連携	2章 6 ターミナルケア 講義、グループワーク	三浦
14	日常生活を支える看護技術	3章 1 食生活 在宅栄養、口腔ケア 療養者やその家族への教育方法 講義、個人ワーク、グループワーク、	太田
15	地域・在宅看護の展望	授業のまとめ	越納

■ 履修条件

地域・在宅看護学概論が履修済みであること。

■ 成績評価方法

成績評価は、授業準備、参加態度 10%、レポート 20%、期末試験 70%により評価する。総合して 60%以上で単位を与える。

*レポート作成にあたり剽窃等が認められた場合は、評価の対象としない。

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

質問に対して、授業内で解説するか個別メールで解答する。レポートに対して授業内で視点等について解説する。

■ 教科書

- ・『デジタル ナーシング・グラフィカ』メディカ出版
地域・在宅看護論 ① 地域療養を支えるケア
地域・在宅看護論 ② 在宅療養を支える技術

■ 参考書・参考資料等

- ・椎名美恵子、家崎芳恵監修（2017）『ナースのためのやさしくわかる訪問看護』ナツメ社
- ・押川眞喜子監修（2023）『写真でわかる訪問看護 新訂第2版』インターメディカ
- ・岩本大希、ウィル訪問看護ステーション江戸川編集（2019）『在宅ケアナースポケットマニュアル』医学書院

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・授業 1 コマにつき、事前・事後学修としてそれぞれ 90 分程度必要とする。
- ・事前学修として、指定された範囲の教科書を読み、質問事項をまとめておくこと。
- ・事後学修として、授業時配布資料とノートを読み、内容が理解できているかどうかを確認すること。

■ 担当教員からのメッセージ

生活の場における看護技術を学びます。実習に直結しますので積極的に取り組みましょう。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

大沼：研究室 15 yu-ohnuma★iwate-uhms.ac.jp

越納：研究室 22 koshinou★iwate-uhms.ac.jp

太田：研究室 24 yoota★iwate-uhms.ac.jp

オフィスアワーは特に定めませんが、事前にメールで連絡の上、訪問のこと。

(※メールの際は★を@にしてください)

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

看護師、助産師

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

有

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

難病認定看護師

■ 実務経験を活かした教育内容

在宅領域（地域包括支援センター、訪問看護ステーション、外来）における実務経験をもとに専門的で実践的な講義と演習を行います。